

女性教職員活躍推進だより

第13号 令和7年6月5日 教育庁職員課

★★ 女性管理職ロールモデル紹介 ★★
二本松市立安達太良小学校教頭

矢野 由美子 さん

矢野先生は、福島市立野田小学校で主幹教諭を経験され、令和6年4月から教頭として、現任校で勤務されています。



職員課主幹兼副課長
渡辺隆博が話を伺いました！！

Q1:これまでの経歴を教えてください。

いわき市立菊田小学校の教諭として採用となり、福島市立茂庭小学校、福島市立佐原小学校、福島市立野田小学校に勤めました。野田小学校では主幹教諭として勤務しました。教頭に昇任し、二本松市立安達太良小学校2年目になります。

Q2:ミドルリーダーの経験はありますか。

茂庭小学校と佐原小学校で研修主任を務めました。どちらの学校でも研究公開があり、先生方の考えを生かしながら研究を進めることや、分かりやすく伝えることの大切さを学びました。

福島市教育委員会の学校教育指導委員を務めた際には、同じ指導委員の先生方と一緒に学ぶことができました。勉強不足を痛感し、教科の専門性を高めたいという気持ちが強くなりました。

主幹教諭として勤務した野田小学校では教務主任を務め、学校全体を見て仕事をする学年主任の先生方にたくさん助けいただきました。

ミドルリーダーのやりがいは、視野が広がり、成長できることだと思います。それまでは物事を自分の学級や学年、自分の校務分掌の範囲でしか見ていませんでした。子どもたちや教職員だけではなく保護者、地域の方々など、様々な方々と協働することにより、立場によって見え方や考え方が異なることを実感しました。そのことは、教頭としての職務を遂行するにあたり、とても役に立っていると思います。



Q3:昇任考査を受験したきっかけを教えてください。

教諭時代、校長先生に「試験勉強をすることは教員としてスキルアップにつながる」と勧められたことがきっかけです。「推薦して下さる方がいるなら、チャレンジした方が良い」と夫からも勧められ、主幹教諭の試験を受験しました。

主幹教諭時代は、管理職の先生方や先輩の先生方が管理職としての考え方や対応の仕方についてよく教えてくださいましたし、校長先生が、お忙しい中何度も面接練習をしてくださりました。先生方の期待に応えたいという気持ちが高まり、教頭への昇任試験を受験することにしました。



児童に向き合う矢野先生

Q4:管理職のロールモデルとなる方は
いらっしゃいましたか。

はい、いました。私は子育てのことで悩むことも多くあったのですが、どの先生も相談に乗ってくださり、休みを取れるようサポートしてくださいました。いつも「家庭が一番大事」「我が子のお母さんはあなたしかいない」と何度も励ましていただきました。

また、教頭時代のやりがいや楽しかったことなどの体験談を教えてくださいましたことで、教頭職を身近に感じられたように思います。

Q5:現在、ワーク・ライフ・バランスで工夫している点がありますか

毎週水曜日に校長先生が学校を閉めてくださるので、なるべく早く帰宅して心と体のメンテナンスをする日にしています。また、研修会に参加する日などは、先生方に学校を閉めていただくこともあります。

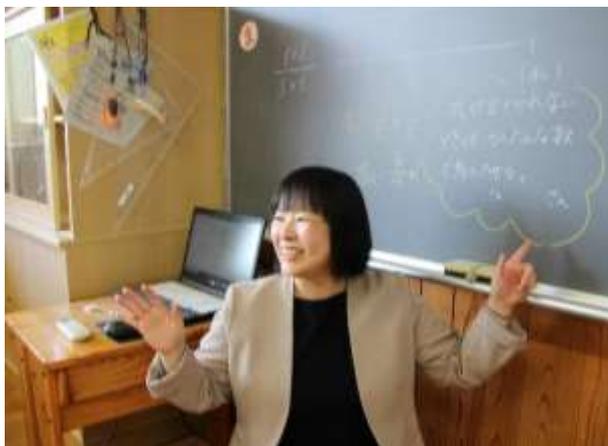
週末は夫と登山やランチに行ったり、娘の部活の応援に行ったりすることでリフレッシュしています。

Q7:教頭として大変なことはありますか。

1年目の4月は、学校のことが分からない中で仕事をしていくことが大変でした。でも一人で悩んだり困ったりすることはなく、いつも校長先生に相談したり先生方に助けてもらったりしていました。

仕事については、市教委の先生方や地区の教頭会の先生方、近隣の学校の教頭先生、前任の教頭先生にもたくさん教えていただいています。

帰りが遅くなる日もありましたが、夫が理解してくれましたし、娘たちも助けてくれました。家族の理解はとても大きなパワーになっています。



算数を教える矢野先生

矢野由美子さん、ありがとうございました。

今後も、福島県で働く女性教職員の活躍を伝えていきたいと思います。

～女性教職員活躍推進だよりの発行に当たって～

福島県教育委員会は、女性が職場においてその力を発揮できるよう、「女性教職員活躍推進プラン」を策定し、教職員のニーズに即した女性活躍のための対策を計画的に推進します。また、男女共同参画の実現に向けて、人事の公平性・公正性を確保しつつ、女性教職員の管理職への登用に努めることで、令和7年度までに、女性管理職の割合を教頭・副校長で19%、校長で13%とすることを目標としています。

Q6:教頭職のやりがいはどうのように感じていますか。

学校全体の教育活動を企画・運営することで、子どもたちが社会とのつながりを学び、笑顔で生き生きと過ごしている姿を見ることができるところにやりがいを感じています。

また、先生方が授業改善にチャレンジする姿を見たり、学級として成長がみられてきたというお話をいただいたりすると、自分のことのように嬉しく感じます。管理職になると担任ではなくなりますが、自分も学級経営を担う気持ちで子どもたちと関わり、授業や児童の指導をしています。たくさん子どもたちとふれ合うことができるので、やりがいを感じます。先生方と授業や学級経営のことで話す時間がとても楽しいです。

昨年度は、地域での職場体験活動を立ち上げたり、地元アーティストの方と学校のイメージソングを作ったりと、さまざまな経験をすることができました。先生方や地域の方に恵まれ、とても楽しく充実した時間を過ごしていると感じています。



校内研修での指導の様子

Q8:女性教職員の皆さんにメッセージをお願いします。

先生方は、子どもたちに声をかけるとき、どんなことを期待していますか？「あなたならできる」「チャレンジして成長してほしい」という期待をしているのではないのでしょうか。

管理職の先生方も同じで、先生方にとても期待しています。「管理職にチャレンジしてみたら」と声をかけられた先生方、ぜひチャレンジしてみませんか。